

第2回 まちづくり市民ワークショップ記録

(1) 開催日：平成24年8月19日(日)、8月26日(日)

(2) 会場：防災センター6階 講座室

(3) タイムスケジュール

< 第1日 >

区分	時間	内容	担当
全体	13:00	受付開始	
	13:30-13:40	挨拶及び計画説明、市を取り巻く環境の変化等の報告	企画政策課長
	13:40-14:00	ワークショップの進め方の説明	事務局
グループ	14:00-14:05	市職員、進行役挨拶	市職員、進行役
	14:05-14:15	自己紹介(参加市民)	
	14:15-14:20	市の各施策の概要(後期基本計画)	進行役
	14:20-16:00	市全体の良い所・改善が必要な所(問題点・課題) の洗い出し	グループ論議
	16:00-16:40	グループ内でのまとめ	
	16:40-16:45	全体のまとめ・次回の作業の説明	事務局
	16:45-17:00	片付け・解散	全員

< 第2日 >

区分	時間	内容	担当
全体	13:00	受付開始	
	13:30-13:40	第2日の進め方の説明	事務局
グループ	13:40-14:00	前回の振り返り	進行役
	14:00-16:00	市全体の良い所を伸ばし、改善が必要な所を見直すための 取組とその実現に向けた検討(確認)	グループ論議
		グループ内意見のとりまとめ	
全体	16:00-16:30	各グループ発表(1グループ10分程度、質疑応答)	各グループ代表
	16:30-16:40	全体のまとめ	事務局
	16:40-16:50	閉会(挨拶)	企画政策課長
	16:50-17:00	片付け・解散	全員

(4) グループ構成

現行計画上のまちづくりの6つの方向に沿った分野(教育・文化・スポーツ、 社会福祉、
環境・景観・ごみ、 都市計画・上下水道・防犯防災、 産業全般、 市民参加・行政経営)
のうち、 と 、 と 、 と を合わせた3つのグループ構成にして分かれて検討しました。

グループ構成		参加者数
1グループ	教育・文化・スポーツ	1日目：6名、2日目：8名
	社会福祉	
2グループ	環境・景観・ごみ	1日目：5名、2日目：6名
	都市計画・上下水道・防犯防災	
3グループ	産業全般	1日目：8名、2日目：5名
	市民参加・行政経営	
計		第1日：19名、第2日：19名

(5) 検討の手順

会議の目的、総合計画の概要について、全員の共通認識を図る

会議の目的、スケジュール、検討を進める上での基本ルール、ワークショップの進め方など
とあわせ、総合計画の概要について説明

市全体の現状の問題点・課題を洗い出す

グループに分かれた後、市の良い所、改善が必要な所の洗い出しを行った。



あるべき姿に向けた取組を検討する

市の良い所を伸ばす(生かす)、改善が必要な所を見直すための各取組(あるべき姿に向け
た取組)を検討した。



グループの意見のまとめ、発表

検討結果に基づき、グループ内で出た意見を集約し、今後の取組として、更に伸ばすべき点、改善すべき点、新たな視点などについてグループの意見として整理し、グループの発表により、ワークショップ参加者全員で成果を共有した。



(6) 検討の成果

別紙、「第2回まちづくり市民ワークショップ グループ別検討内容の記録」参照

なお、グループ意見のまとめにおいて、2グループ以外のグループでは、検討範囲の多様化や検討時間の不足などにより、グループの意見としてまとめるまでに至らなかった。そのグループについては「取組の方向性(個別意見を掲載)」として掲載している。

第2回 まちづくり市民ワークショップ グループ別検討内容の記録

開催日：平成24年8月19日(日)及び8月26日(日) 午後1時30分~午後5時 会場：防災センター 6階 講座室

1.グループ意見

[1グループ][主な検討領域：教育・文化・スポーツ、社会福祉][参加者：第1日目6名、第2日目8名]

視点		課題抽出に向けた個別の意見		課題のポイント	取組の方向性に向けた意見 (個別意見のまとめを掲載)
学校教育関係	給食関係	良い所	<ul style="list-style-type: none"> 給食まるごと放射線検査の実施(各小学校年1回)は良い。 中学校給食の実施は良い。 食育に基づいた献立による自校式給食は良い。 	学校給食の様々な取組 学校給食の質における学校間のばらつき	給食食材の安全性を高める。 ・アレルギー・食事制限のある児童に対する個別対応を学校による差がないようにして欲しい。 ・給食食材の事前放射性物質検査を充実して欲しい。 学校ホームページで献立・食材を公開する。
		改善が必要な所	<ul style="list-style-type: none"> 給食食材検査の実施が充分ではなく、市立保育園以外は検査されていない。 給食献立、食材調達等が各校校長、栄養士に任されているため、学校による差がある。 		
教育制度・教育施設・教育内容		良い所	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館専門員が2校に1名は三多摩では進んでいる。 西東京市立学校災害時対応マニュアルの作成は良い。 		
		改善が必要な所	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館専門員を更に増やすべき(1校1名に)。 現在行われている学校選択制は、「地域を結びつける」「地域で子どもを育てる」という観点では見直して欲しい。 古い学校施設の老朽化への対応 学校校庭の芝生化は推進すべきか。 西東京市立学校災害時対応マニュアルの整備は各校に任されており、学校による差がある。もっと専門性に応じた対応が必要 東日本大震災時の避難所としての学校運営のノウハウ、経験が市のマニュアルに活かされるよう調整を図る必要がある。 学校が震災時の避難所になっているが、地域・学校の連携が不明確 子ども教育は、権利・義務・責任を総合的に教えたい。 教員によって道徳への理解の偏りが大きいのではないか。 前期青年期(中学)、後期青年期(高校)での文化・スポーツを進める施設、制度の充実を望む。 学校教育の中で、文化を高める芸術振興(鑑賞教育、鑑賞教室)の拡充を望む。 文部科学省が推進している学校支援地域本部や放課後子ども教室の制度をどう使うのかわかりづらい。 日本の成り立ちを学ぶ上で、古事記、日本書紀など「日本神話をもっと知ろう」キャンペーンを行う 子どもが天皇陛下と皇室について学べるようにする。 道徳教育に教育勅語(現代語訳)を加え、日本人の伝統的な道徳観を学べるようにする。 	学校図書館専門員の更なる充実 学校選択制の見直し 学校施設の老朽化への対応 学校における防災対策の学校間のばらつき 道徳教育の必要性 教育の中で文化、芸術に触れる機会を増やす	読書教育を推進する。 ・学校図書館専門職員を1校1名にして欲しい。 学校選択制は見直しはするものの、制度としては残す。 ・学校ごとに特色があるようにして欲しい。 ・自身の責任で選択できることは良いこと。続けて欲しい。 計画的に学校施設の老朽化への対応に取り組む。 ・地元業者を優先する。 空き教室、空いた学校の有効な利用方法を柔軟に考える。 生活困窮世帯の子どもへの学習援助の充実を図る。 ごみ収集カレンダーのように日々見ることができそうな防災マニュアルにする。 ・西東京市立学校の災害対応マニュアル等も含め、公の関わる災害マニュアルや避難場所等のシンプルな防災総合マップ(市民が壁に貼れるようなもの)が必要。 ・防災士を活用する。 ・防災マニュアルを学校に限定したものではなく、地域のマニュアルにする。 道徳教育のあり方を見直す。 大学との連携などの工夫により、芸術鑑賞教育の充実を図る。

視点		課題抽出に向けた個別の意見	課題のポイント	取組の方向性に向けた意見 (個別意見のまとめを掲載)
学校教育関係	児童館・学童クラブ	良い所	専門性のある児童館の設立 児童館の適正配置 学童クラブの定員超過	小学校区に少なくとも一つは児童館を配置する。 ・児童館空白地域をなくす。(泉小・住吉地域) 公共施設を有効活用する。 ・長期的な計画のもと、定員超過の学童クラブの解消を図る。
		改善が必要な所		
	保育園	改善が必要な所	・保育園の待機児童が増加している。	・保育を援助できる保育ママの育成とその質を確保する。 ・長期的な計画のもと、保育園の充実を図る。
人権	良い所	男女平等参画推進は最近進展している。 ・全国的に見ても、当市の男女平等推進センターの電話相談体制は素晴らしい施策である。続けて強くアピールして欲しい。 ・理念として「人権」「平和」「子ども参加」「子どもの権利」がうたわれている。	男女平等参画、人権、平和、子どもの権利などの推進 権利と併せた義務と責任の明示 主体性を育む教育 子どもの権利に関する理解	男女平等参画、人権、平和、子どもの権利などを引き続き推進する。 国際化とあわせて主体性を育む教育を推進する。 子どもの権利に関して、大人、行政での理解を深める。 学校で「身を守る」教育を行う。 ・「逃げる」という行動や「助けて」と声をあげる訓練が必要。
	改善が必要な所			
生涯学習	改善が必要な所	・市にどのような生涯教育の機会があるかが周知不足 ・市に早稲田大学や武蔵野大学などあり、周辺にも多くの大学があるが、それらの資源を市民教育に生かすべき。 ・定年退職後のまちづくり参加、教育機会の周知不足 ・シニア世代の活動の場の情報が少ない。 ・いわゆる「シニア大学」を導入して、生涯教育の充実、老後の充実を図って欲しい。 ・日曜大工や工作に市民が利用できるスペースが欲しい。	生涯教育の場のPR 趣味などで市民が利用できる場の提供	シニア大学を創設する。 ・生涯学習機会や社会参加への対応、地域貢献につなげる。 ・生涯学習コーディネーター資格等を持った人材を活用する。 ・生涯教育メニューを周知する。例えば、60歳以上の人に案内を出す。

視点	課題抽出に向けた個別の意見		課題のポイント	取組の方向性に向けた意見
高齢者	良い所	・ひとり暮らしの方への民生委員、防犯パトロールなどの見守りは良い。	地域での見守りの拡大	見守りに対する市長からの表彰制度を設ける。 ・他人の子どもでも、悪さを見たら叱る。「子どもを叱ってくれてありがとう」運動を行なう。
	改善が必要な所	・災害時の独居の方の把握を市全体で地域ごとに具体的に取り組む必要がある。 ・高齢者世帯、独居高齢者に対するコミュニケーションが必要 ・長寿社会を支える老人保健施設、特別養護老人ホームを国、都といっしょに増やして欲しい。 ・高齢者や子どもとの市民交流の場がない。 ・民生委員が不足している。	高齢者向け施設・支援やコミュニケーション機会の充実 民生委員の不足	高齢者の通院や買い物の支援を行う。 ・お弁当、スーパーなど宅配業者を誘致する。 ・商店街の御用聞き活動を支援する。 民生委員の欠員をなくす。 ・社協のほっとネット、ふれあいまちづくり活動の活性化、民生委員との協力を図る。 ・地域における安全対策として、ボランティアの見守り実施に加え、民生委員や児童相談委員の充実を望む。
障害者	改善が必要な所	・地域の中で雇用を創出し、働く喜びや自立の喜びを共有したい。	障害者の就労支援	障害者への理解を進める教育を行う。 障害者の施設をオープンに活用し紹介する。
子育て	良い所	・市民参加により作成した子育てハンドブック等各種情報冊子、パンフレット等を母子手帳と一緒に配布している。		
	改善が必要な所	・子ども家庭支援センターの機能、利用方法が周知不足 ・誰にも相談できずに育児に悩んでいる母親への支援策の充実 ・子連れで行ける場所などの情報発信について工夫が必要	子ども家庭支援センターの周知 子連れで行ける場所についての情報発信	ホームページ、携帯電話、スマートフォンなどでのPRを工夫する。 子育てのホームページを見やすく工夫する。
地域福祉	良い所	・ゆめこらぼは市民に対する支援に頑張っている。 ・西東京市社会福祉協議会だより特集号は、市民参加による編集で、ライフサイクルにあったいろいろな情報が整理されている。		
	改善が必要な所	・支援の情報が周知不足	支援情報の周知と工夫	パンフレットなどの紙ベース情報も提供する。 特定テーマを特集した市報を発行する。

視点	課題抽出に向けた個別の意見		課題のポイント	取組の方向性に向けた意見
安全・安心／コミュニケーション	良い所	<ul style="list-style-type: none"> ・防災無線をとおしての子どもの安全を見守るメッセージはとても評判が良い。 		
	改善が必要な所	<ul style="list-style-type: none"> ・日中市内にいない世帯が地域と交流できる機会の確保 ・地域で親同士または親子同士で交流の場の充実 ・町内会機能の充実 ・町内会でのコミュニケーション(ささえあい)の充実 ・生活道路の危険箇所をつかみ、早く修復して欲しい。 ・防災無線の声が割れて聞き取りにくい地域がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域での交流の場 町内会の役割・機能 施設の効率活用 地域での防災 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みなどの長期の休み中に子どもが参加できる子ども会やキャンプなどを増やす。 町内会の活性化を働きかける。 ・地域でのまつりなどへ参加する。 ・年1回の総会開催を働きかける。(きっかけが必要) 市の施設(図書館、公民館、学校など)の有効活用を図る。 国や都の助成を生かすための空き家や土地を高齢者施設に活用する。 市役所が機能不全になったときの対応も検討する。 他の県、市、区の良い事例を取り入れる。

[2グループ][主な検討領域:環境・景観・ごみ、都市計画・上下水道・防災防犯][参加者:第1日目5名、第2日目6名]

視点	課題抽出に向けた個別の意見		課題のポイント	取組の方向性に向けた意見
地域環境 (大気・水・みどり)	良い所	<ul style="list-style-type: none"> ・いいの森公園は利用しやすい。 ・東大農場は貴重なみどりとして残したい。 ・石神井川の東伏見稲荷神社付近の水質が良い(湧き水あり)。 	東大と連携したみどりの確保	<ul style="list-style-type: none"> ・みどりの保全を図る。 ・東大農場の一部を市民農園として活用する。 ・道路を通さない。(みどりを保全する) ・良い所を知らせていく。(自然が循環していることを五感で感じられる。) ・4月頃は桜、8月頃はひまわりといった生物の観察を行う。 ・東大農場を横断する道路の地下化を図る。 ・東大農場の現状を維持するように働きかけ、情報を公開する。 ・個人宅の緑化支援を行う。 ・みどり基金を活用する。 ・屋上緑化を助成する。 ・農地、屋敷林を保持する。
	改善が必要な所	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な所に公園が少ない。 ・公園空白地の検討の際、校庭開放の学校も公園の扱いになるのはおかしい。 ・東大農場を中心とした農地の活用 ・東大農場はできるだけ現状(環境)維持を原点で、努力してもらいたい。水源でもある。 ・石神井川の東伏見稲荷神社付近の管理が不十分(草がぼうぼう)。 ・大気・水・みどりを育て守るには生物の育成が大事だと思う。 ・子どものぜん息が多い。 ・放射線量測定の箇所と回数は増加しているが、もっと増やすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 公園を増やす 都営住宅の跡地の利用 東大農場の現状維持 石神井川をきれいに 小中学校の環境保全の拠点としての活用 	<ul style="list-style-type: none"> 水の保全を図る。 ・石神井川、千川上水周辺の水遊び場を確保する。 ・水源を大切に都市計画が大事。農地の維持や東大農場、小金井公園の環境を守る。 大気の保全を図る。 ・電気自動車・発電エコカーの利用を図る。(ぜん息を減らす。) 公園を整備する。 ・市民が利活用できるみどりの公園を地区ごとに指定する。(災害時の避難場所として活用できる。) ・みどり、農業に関するソーシャルビジネスを支援する。 ・都市公園・市立公園の再配置、再整備を行う。
地球環境 (地球温暖化・エネルギー)	良い所	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電システム設置の助成制度がある。 	電気自動車の乗り合いのしくみづくり(民間の取組)	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの利用を促進する。 ・電気自動車用のインフラ整備、個人宅への設置を減税などで支援する。 ・公用車を電気自動車に変える。
	改善が必要な所	<ul style="list-style-type: none"> ・焼却炉で発生する熱を利用したエネルギー(電源)をつくり出す方策はないか。 ・市有車にバイオディーゼル燃料(BDF)を利用する。 ・自然エネルギーへの取組をもっと積極的にすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 市有車のBDF車化 公共施設への太陽光発電システムの設置 小中学校統廃合・新築時の自然エネルギー等の最新の技術の利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・充電所の予算を計画に入れる。 ・環境に良いポイントをつくる。 ・電気自動車の優先道路(市道)をつくる。 ・石神井川での水力発電、剪定枝での火力発電を行う。
ごみ・リサイクル	良い所	<ul style="list-style-type: none"> ・分別の徹底は現状が良い。 	2R(Reduce・Reuse)意識啓発への取組(再資源化(Recycle)にはエネルギーの消費も必要のため)	<ul style="list-style-type: none"> 家庭ごみの再利用を促進する。 ・ごみの堆肥化・エネルギーへの活用ができています。 ・ごみのリサイクルで堆肥化を図り、農地の活用とする。
	改善が必要な所	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみのリサイクルは分別によって大地に活用できる方向が必要。 ・ごみの分別を細分化(有料袋は評価する)。 ・生ごみを減らす。 	<ul style="list-style-type: none"> ごみ処理量の削減 ごみの堆肥・エネルギーへの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・粗大ごみのリサイクルを推進する。 ・生ごみ処理機の購入の助成を充実させる。 ・コンポストの配布を行う。

視点	課題抽出に向けた個別の意見		課題のポイント	取組の方向性に向けた意見
住環境・ 学校を拠点 とした地域 活動	良い所	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館・図書館はバランス良く配置されており、利用しやすい。 		
	改善が必要な所	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設が少ないので、学校施設の利用を拡充してもらいたい。 ・住吉町の都営住宅跡地の公園や広場としての利用を考えたい。防災や環境で重要(地域的にも) ・環境、地域のしくみは小学校の学区域を基本にして欲しい。 ・学校(小・中)について、今も保谷・田無の過去にとらわれている面があるので、新築・廃校・合併の折には参考にしてもらいたい。 ・小中学校を都市計画・防災、子どもたち、地域の生活の拠点に位置づけたい。 	<p>小中(高)校施設の地域での利用・運用の拡大 運動場・体育館・特別教室の利用・運営 高齢者のスポーツ・学習・趣味・同好会などを通じた健康で元気な生活 ソフトは自分たちで、ハードは現状の施設を利用 改修くらいで新築は考えない</p>	<p>小中学校の利活用を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校は教育の場であるとともに、地域学習、環境、防災の拠点とした考えで整備できたら良い。運営は地域住民と行政の協働で行う。 ・小中学校の住民参加による総合的利用を図る。(教育・環境・福祉(高齢者・子ども他)・防災(避難場所・井戸の設置)) ・小中学校の余裕教室を利用する。 ・都市計画の中心として地域バランスを考えた拠点づくりを図る。大規模なものは東大農場や公園等、中規模は小中学校、小規模は町会・自治会・団地等 ・小中学校利用者には人物確認が必要 <p>都営住宅跡地を有効的に利用する。</p> <p>公共施設を整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館・図書館等は充実しているので、現状維持で考える。特に、ソフト面は市民中心に推進していけば良い。 ・二庁舎体制については、一庁舎を基本とし、行政事務は地域の出張所(公民館・図書館等との共同事務所)で行えば良い。
道路・交通	良い所	<ul style="list-style-type: none"> ・新しくできた道路は走りやすい。 ・歩道が整備されて利用が安全になった。 ・道路の管理では市民からの依頼に対し対応が早い。 	歩行者・自転車・自動車の共存	<ul style="list-style-type: none"> 安全な道路を整備する。 ・危険な道路の見直しをする。(自転車専用レーン・歩道の充実) ・車優先から歩行者優先社会へ転換する。 ・子どもや高齢者、歩行者、自転車の安全を基本とした道路整備。新しい大きな道よりも、生活道路の安全整備が必要
	改善が必要な所	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路の工期について地域住民・施設利用者に事前にもっと説明が欲しかった。 ・道路の管理を充実させて欲しい。市民の協力も必要 ・新しい道路より現在ある道の拡幅、特に歩道・自転車道の安全対策が必要 ・道幅が狭く、車いす・乳母車で安心して歩けない。 ・道が狭くて危険(自転車専用レーンの設置) ・自転車で安心して走れる道路がない。 ・田無駅南口のイメージづくりが必要 ・ひばりヶ丘駅北口の都市計画道路の整備や田無駅南口の再開発で、交通面においてバス・自動車・自転車を利用しやすくしたい。 	<p>歩道の拡幅 狭い道の一方通行化 現在ある道路の歩行者・自転車優先化 幹線道路と生活道路の役割の明確化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スピードを出させないような工夫をし、自転車走行帯(自転車専用レーン)を設置する。 ・自転車の交通マナーの向上、安全講習や罰則も必要。(携帯電話の使用・喫煙・逆走・一時停止違反等) ・歩行者・自転車を優先した生活道路を整備する。 <p>パーク・アンド・ライドを実現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はなバスを有効利用する。 <p>みどりを保全する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画道路の緑化を図る。

視点	課題抽出に向けた個別の意見		課題のポイント	取組の方向性に向けた意見
防犯・ 防災	良い所	<ul style="list-style-type: none"> ・救命講習(9月)を行っていることは良い。 ・避難場所ごとの運営協議会はぜひ推進して欲しい。 	地域ごとのつながりの強化 地域での防災活動の実践 小中学校の防災拠点化 地域ごとの避難場所を決定 東大農場・小金井公園・都立公園の広域防災拠点化 日常と災害時の運用 救命講習会の週末の実施 防災設備の拡充 各戸への防災無線の設置	地域の防災活動を充実させる。 ・消防団の強化と類似団体の底上げを図る。 ・地域ごとの避難場所の周知の徹底とつながりの強化を図る。 ・市民マップを年1回配布する。 ・大規模な避難場所はいこいの森・東大農場、中規模は小中学校、小規模は公民館・集会場・図書館・自治会・町会・出張所とする。 救命講習を強化する。
	改善が必要な所	<ul style="list-style-type: none"> ・救命講習会が年1回ではなく、もう少し増えると良い。 ・生垣の木が高くなり、防犯が心配 ・市として避難場所を定めて市民の認知を得る必要がある。 ・防災無線が聞こえにくい地域がある。 ・二次避難場所ごとの防災倉庫の検討が必要 		

[3グループ][主な検討領域: 産業全般、市民参加・行政経営][参加者: 第1日目8名、第2日目5名]

視点	課題抽出に向けた個別の意見		課題のポイント	取組の方向性に向けた意見
	良い所	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物の直接販売がある。 ・軒先販売所が充実している。 ・地産地消、農地が多い。 ・地場野菜が近くで購入できることが良い。 ・近くの店で地場野菜が販売されており、農薬なども規制されているのが良い。 ・農業振興プランがあることは評価できる。 ・総農家数 306(H17)、経営耕地面積 18,230a、農産物の提供・豊かなみどりの空間が維持されている。 ・買い物しやすい。 ・西武線の駅が5駅あり、便利である。 ・はなバスが便利である。(市民が提供した傘が置いてある。) 	<ul style="list-style-type: none"> 直売所が充実 地産地消の進行 農地の多さ 地場野菜 農業振興プラン 交通の利便性 	<ul style="list-style-type: none"> 地場野菜の直売所の更なる充実と、マップの作成やホームページへの掲載による情報発信。インターネット販売等の検討。 ・地場野菜をもっと利用して、集客を得る。(一定の場所や時間、利便性)直売所だけでなく数・種類が少ない。 ・農家はホームページなどで知らせる。 ・新住民向けにマップを作成。 ・市の農作物を買える場所の地図を作成する。(パンフレットと市のホームページ) ・フェイスブックなどを利用した情報発信、農産物のネット販売。 <ul style="list-style-type: none"> 地場野菜を公共機関で利用する。 ・公共の食堂、給食への導入 ・市役所食堂は地場野菜を利用する。
農業・商業など	改善が必要な所	<ul style="list-style-type: none"> ・直売店が遠い。宣伝が少ない。 ・地産地消が深まっているのが見えない。 ・学校給食に地場野菜を導入するシステムづくりが必要 ・ファーマーズマーケットなど1つ踏み込んだ人が楽しめる定期的な(例えば、日曜の朝)催しが欲しい。(例:東大農地、いこいの森公園、各駅前等において、野菜+商業ともコラボし、アクセサリ・クラフト・音楽・地野菜の屋台を出す。) ・地場野菜をまとめて見ることができるような、市(いち)のようなものを定期的で開催する。(市民祭りのとき等) ・畑が宅地になってしまうのが悲しい。 ・農地が宅地化され、農地がさらに減少していく。(後継者不足、世代交代) ・農業の後継者育成が必要 ・農家の高齢化で継承されるためには、相続税の地方税化で、市がそのまま受けとり、農地として活用する。 ・市民の農業に対する理解を深め、農地を守る対策が必要 ・援農ボランティアは実績が少なく、効果がない。施策そのものに疑問がある。 ・他の都市部における農業経営者の成功事例・直面する問題を知る。 ・雨水の利用を図る。(駐車場のコンクリートを剥がして草地にする。路地尊(雨水の貯水槽)を多く設置する。) ・井戸がある家に、水質保全検査を行い、手押しポンプを設置して欲しい。 ・防災用の井戸を増やすための施策が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 直売所、地場野菜の周知・活用 農地の宅地化 農家の高齢化・後継者問題 援農ボランティアの効果 市民の農業に対する認識 雨水の有効利用の検討(路地尊等) 	<ul style="list-style-type: none"> 地産地消の拡大を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ファーマーズマーケットの定期開催、生産者と市民等との議論の場をつくり、市民の認知度を向上する。 ・定期的なファーマーズマーケットの開催により、活性化し、市民にも興味をもって利用してもらう。 ・地産地消を上げるため、生産者と市民と行政の三者で相互理解のための話し合いの場をつくる。(相互理解の促進) <ul style="list-style-type: none"> 農業における若者等の雇用を拡大、人材育成を図る。 ・農業の育成に取組。後継者不足に対して、若者など雇用の拡大をして、人と産業を育てる。 <ul style="list-style-type: none"> 「農地市債」等の発行による農地の宅地化の縮小。 ・農地の宅地化を縮小させる。市街化区域なので残すのは難しいが「農地市債」を発行して意志ある市民が買う。(10年~20年)

視点	課題抽出に向けた個別の意見		課題のポイント	取組の方向性に向けた意見
農業・商業 など	改善が必要な所	<ul style="list-style-type: none"> ・シャッター商店街の活用 ・1坪ショップ(1週間限定ショップ)、小さなコミュニティを活用する。 ・各商店街の活性化を図る。 ・商店街の道は狭いし、自転車道と同じで歩きにくい、電信柱もじゃまな所が多い。 ・50年100年かけても建替時に、セットバックで道を広げてポケットパークにしている。 ・親子が立ち寄れる場が少ない。無料の多世代交流の場を商店街内につくる。 ・大きなスーパーが無いからこそ商店街が元気になるって欲しい。 ・近所に商店街があっても用が足りない。必要な商品が置いてない。 ・小さなお店で買い物をする度にレジ袋をもらってしまう。(商店街のエコバック) ・若い店主さんが1人で頑張っているような店が増えている。魅力的なお店がけっこうある。そのような店のマップが欲しい(東久留米、練馬にはある。) ・商工対策費 H23 年予算 100,509 千円、商工会補助金・商工会地域活性化補助金は有効に使われているか疑問がある。 ・まちの便利屋さん(電気屋さん、IT 関連)が少ない。シルバー人材センターでは足りない。 ・5 駅あることで購買客が都心や吉祥寺等へ流れる。魅力ある商店が少ない。 ・田無駅前と西武柳沢駅前の再開発に取り組む。 ・開発、ハコモノ建設はゼロベースで考える。 	<p>商店街の活性化、シャッター商店街の活用 商店街の道路等整備 小さな商店街ならではの特色、魅力あるお店の紹介</p>	<p>商店街の空きスペースを積極的に活用する。 ・商店街の空いている所を市が積極的に活用。特産品の販売所やイベントへの貸し出し。</p> <p>行政が産業振興に関するビジョン構想を明示する。</p> <p>事業者同士がプランづくりを検討する場を設置する。 ・事業者(農家や商店)が場を設けて、振興プランを検討・策定する。またイベントの企画等を行う。</p> <p>「地域振興券」の新たな活用を図る。 ・地域振興券を利用した地域経済の活性化。(商店街側の工夫によって、お金をかけない振興券の企画を考えるべき。)</p>
新産業	良い所	<ul style="list-style-type: none"> ・創業支援センターがある。 	<p>創業支援センターの活用、創業支援体制の充実</p>	<p>空き店舗の活用のため、空き部屋の状況やSOHO等の実態を調査してマッチングを図る。 ・空き状況の調査、SOHO等の実態を調査して意志のある人を募集する。</p>
	改善が必要な所	<ul style="list-style-type: none"> ・起業を促進するような施策がない。社会的事業団体を支援して欲しい。 ・事務所を借りたいが利便性の高い場所はとて高い。空き店舗情報を求めたがなかった。 ・商店街の空き店舗の増加を受け、空き店舗にSOHOを誘導する。 ・コミュニティビジネスの起業を拡大。 ・三鷹市のSOHO事業所は200事業所ある。西東京市で公設の事務所として提供できるものがない。 ・SOHOには市民会館等の有効活用を。 ・市民会館に学習室があるのは良い。 ・新エネルギー産業の創出。(NPOなど) ・エネルギーの地産地消を目指す。学校・公共施設などの屋根、壁などにソーラーパネルを設置してエネルギーを創出する。 	<p>空き店舗・公設の事務所等の活用によるSOHO等の誘導・団体支援 コミュニティビジネスの起業の拡大 新エネルギー産業の創出</p>	<p>コミュニティビジネスの人材発掘に向けた講座の開設。 ・リタイアした市民が起業しやすいように、連続講座を開いて起業へ誘導する。(人材の発掘)</p> <p>新エネルギー産業の事業化に向けた計画の作成や助成金の充実、企業等への働きかけに取り組む。 ・行政は新エネルギー事業の計画を作成して、その中に学校・公共施設等のソーラー化を盛り込む。 ・マンション・戸建てなどへの助成金を拡充する。 ・企業への働きかけをする。 ・NPOを立ち上げやすい環境作り。</p>

視点	課題抽出に向けた個別の意見		課題のポイント	取組の方向性に向けた意見
まちの 魅力づくり	良い所	<ul style="list-style-type: none"> ・いこいーなは器量良し。 ・千川上水が散策に最適 ・家庭のガーデンが美しい。 ・各種のイベントがたくさんある。 ・静かな生活環境で暮らしやすい。 ・市歌にまちの住み易さがすべて表現されている。 ・オオタカの住みかの東大農場・演習林 10 万坪はまち一番の宝物 ・保存林がある。(少ないとは思いますが。) 	静かな生活環境、ガーデンの活用 千川上水の PR 市歌の普及・拡大 多摩六都科学館の活用 東大農場・演習林を活用した場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ツイッター、フェイスブック等の利用により、魅力の情報発信を図る。 ・ツイッターによる市のお知らせは良い。「西東京市 web」への誘導になる。 ・フェイスブックを利用しての情報発信、農作物のネット販売を行う。 <p>東大農場・演習林について保存・活用を目指す。(協働)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの宝物として、東大農場・演習林 10 万坪を残す。(市と市民の協働) ・市民の協力を得て東大農場・演習林の土・日開放を実現させる。 ・東大農場は大学の教育機関であるので、市民は節度を守って活用する。 <p>屋敷林・農地の保存・活用を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋敷林や農地を保存するために、相続税を地方税にする、相続時に市に贈与してもらうなどの検討を。
まちの 魅力づくり	改善が必要な所	<ul style="list-style-type: none"> ・「いこいーな」が活用されていない。いこいーなのキャラクターグッズがあってもいい。ゆるキャラ推進でまちに親しみをもってもらう。 ・アニメ産業を活用して、常設で子ども達が集える場をつくる。 ・子どもたちの遊び場である公園の整備 ・原っぱ公園、自然を活かした子どもの思いっきり遊べる場・プレーパークを増やす。 ・公園の活用力が弱い。(遊具、パーキング、商店) ・千川上水を広く PR ・市歌の普及・拡大 ・多摩六都科学館を市外から人をよせる観光スポットにする。 ・東大農場の自然にふれる場づくりを充実させる。 ・他の都市の住民まで呼び込める散策ルートを工夫する。 ・みどりの生垣を推進する。 ・神社・寺を商工・市民が利用して賑わいをもたせる。 ・地区計画づくりは地区の住民だけでなく市全体で考える。 	いこいーなの活用 保存林等、みどりの活用 神社・お寺の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・マスコットキャラクター「いこいーな」の活用。(グッズの制作・販売、市内配置等) ・キャラクターグッズを売る。 ・まちの至る所で「いこいーな」を配置する。(商店街など) ・「隠れいこいーな」などがあると面白いと思う。(例:いこいーなの影が駅公園のベンチにある。) <p>公民館・図書館等の有効活用(空きスペースの情報提供)を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自習室を増やす。 ・公民館や図書館などの空きスペース・時間を活用する。 ・公民館・地区会館等を市民が無料で利用することで、明るく育ち元気で老いるまちづくりができる。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・西東京 3・4・9 号線は「種の保存法」からも生物多様性を保てないので、都へ中止の要請を。 ・新たな都市計画道路はストップする。調布保谷線は 2 車線に。4 車線では公害が発生し、まちは破壊される。 ・生物多様性を保全するため「種の保存法」を守る。 		

視点	課題抽出に向けた個別意見		課題のポイント	取組の方向性に向けた意見
市民主体の活動	良い所	<ul style="list-style-type: none"> 市民活動グループ・地域サークルが多数ある。 公民館事業(例:ババクラブ、プレーパークキャラバンなど)が盛ん。 サークル活動が積極的に展開されている。 活動に参加している市民が多い、意志が強い。(能動的市民が多い) 	市民グループ・地域サークルなどの活発な活動	<ul style="list-style-type: none"> サークル活動に多くの人に参加できるよう、時間帯の拡大を図る。 サークルが行われているのは、昼間が多く参加しづらい。夜(土・日)も参加できるようなサークル活動を立ち上げてほしいと思う。 地域サークル活動に対する地元事業者の資金協力を募る。
	改善が必要な所	<ul style="list-style-type: none"> サークル活動の時間が合わない。 地域防災、子の見守り、一人住まいへの対応のため、町内会を積極的につくる。 災害時や子育てのため、地域のつながりを強化(情報共有) SNSを利用した市民コミュニティの形成 市民主体の活動の広がりを広く紹介してほしい。 市政を身近に感じられない。(個人の問題もある) 市民活動の支援、学習会を開催する際の費用援助の仕組が欲しい。 市民参加が硬直化しているので、市民参加条例の見直し検討が必要 無作為抽出でのやり方など、新たな市民参加のしくみの構築 多文化共生を実行するため、外国人の市民参加の促進する。 若い人、子育て中の人に参加しやすい仕組作り。(保育制度の導入) 	地域コミュニティの創造(活性化・再生) 市民活動の周知・情報発信 市民参加条例の見直し、市民が参加しやすい仕組作り	<ul style="list-style-type: none"> 市民参加を活性化させるための新しいシステムを検討する必要がある。(審議会・検討会等への市民枠の拡大、市民会議サロンの開催など) 今の市民参加条例の中での市民参加は硬直化している。(市民参加した実感が市民の中に持てるようにする)新しいシステムの導入など、現状の市民参加条例を点検して見直す必要がある。 審議会・検討会などの構成の市民枠を広げる。無作為抽出による討論会などの導入を検討する。 市民は恒常的に市民会議を開催して、自分たちのまちを良くしていく。 市民ワークショップ等に子育て世代が参加しやすくなるような仕組作り。(開催時における保育環境の整備) 子育て世代が参加しづらい。(保育環境の整備)
市民と市の協働	良い所	<ul style="list-style-type: none"> ゆめこらぼ(協働推進センター)があることで、西東京市社会福祉協議会に市民活動の相談がしやすい。 ゆめこらぼができて相談することができ、良かった。 協働推進センターの設置(ゆめこらぼ)。 ボランティアセンターがあり、誰でも参加できるようになっているので、小学生(高学年)も早く仕事を体験できる。 合併時に市民参加条例が制定され、その条例にそってまちづくりに市民参加が進んでいる。 協働の指針があり、それにそって推進している。 まちづくり市民ワークショップが実施されたこと。 出前講座の中で専門的な知識をもった人が来てくれ、団体の取組を理解してもらえた。 	ゆめこらぼの設置、相談が容易 ボランティアセンターがあるので参加が容易 市民参加条例、協働の指針による市民参加の進行 まちづくり市民ワークショップの実施	<ul style="list-style-type: none"> 市民参加による「市民協働基本条例」「議会基本条例」の策定を目指す。 市民がまちづくりに積極的に参加・議論することが大事。多くの市民で時間をかけて「自治協働基本条例」をつくる。 市民参加で議会改革をすすめるため、「議会基本条例」を策定する。 現行の市民参加条例は市民の権利と義務が抜けている。市民参加条例を多くの市民の参加する形で見直し、委員は半数以上を市民参加とする。 「ゆめこらぼ」の役割や位置づけ等を明確化して市民の共有化を図る。 市民活動を活性化する。 ゆめこらぼの役割、協働の意味を市民・行政が共有化する必要がある。
	改善が必要な所	<ul style="list-style-type: none"> 散策マップは、実際に歩いて具体的なルートを市民と協働で制作し、ホームページなどに公開する。 堅いイメージではなく、イラスト風にお店紹介(まちのポイント)するなど、意見を共同で集めてより親しみやすいものを作る。 ボランティアの得点制も良いのではないかと。空いた時間で買い物・掃除・運転、子どもの送り迎えなどを。自分が必要なサービスを点数化していく取組。 	イラスト散策マップの協働での制作 ボランティアのポイント制の導入	<ul style="list-style-type: none"> 市民協働条例(市民活動推進条例)を策定して、その中で基本理念、協働の意味、「ゆめこらぼ」の位置づけを明確にする。 ゆめこらぼの管理を市長直轄にして、市内の状況を知っていて運営のコーディネートができる人をセンター長にして自主・自立性を尊重する。

視点	課題抽出に向けた個別意見	課題のポイント	取組の方向性に向けた意見
市民と市の協働	<p>改善が必要な所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働に対する行政のイニシアティブが必要 ・行政の市民活動への理解が少ない。 ・事業を協働で行うときの縦割りの課題がある。市は横断的対応ができる組織になって欲しい。 ・協働への認識が市民と行政とでは温度差、違いがある。 ・ゆめこらぼの活性化が必要 ・ゆめこらぼと市民が話し合う場にも市職員が来て欲しい。 ・ゆめこらぼの位置づけが分かりにくい。役割が見えにくい。(活性化が必要。) ・市民協働センターを自立した組織として市民が運営できるようにする。 ・有能な市民の発掘・活用が必要 ・リタイアした人が地域で能力を活かせる仕組みが必要 ・市民活動をすすめるリソースセンター等の人材育成機能をつくる。 ・まちづくりに市民団体の活用をもっと進めて欲しい。 ・民間委託した場合は団体の主体性を重視し、過度な規制を行わないで欲しい。 ・定期的に、このような会を開催し、改善を意識する。 ・市民ワークショップのテーマに「保育」の追加をして欲しい。 ・市民ワークショップは、小さくても長く継続して欲しい。 ・市と市民団体が課題解決に向かって話し合う場が無い。 ・今回のような参加しやすいワークショップの定期開催 ・補助金を市民参加で見直す。 ・協働推進条例を市民参加で作る中で、市民と職員が意見を出し合いお互いに高め合い力をつける。 ・自治基本条例を大勢の市民が議論して時間をかけてつくる。 ・市民参加条例を見直し、市民参加2名以上を半数以上として市民の権利、市の義務を盛り込む。 ・市民力を高めるために公民館や地区会館等、市民が学び集う場所を削減せずに無料で使えるように。 ・まちづくりの学習に市民、行政、議員が共に参加して情報の共有と合意形成を図る。 	<p>協働・市民参加についての理解の向上 ゆめこらぼの活用・活性化 人材の発掘・育成・活用 市民団体の活用 市民が参加できるワークショップ等の定期的な開催・テーマの追加 市民参加による条例等の作成・見直しが必要 市民・行政・議員の共同参加でのまちづくり学習が必要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行政は市民協働への意識・理解度を向上させ、具体的な支援体制を明示する必要がある。 ・行政は市民協働に対する意識・理解を深め、具体的な支援体制を明示する。 ・自治会を再構築して、地域活動(防災等)に積極的に参加できる仕組み作り。
市の行政経営の視点	<p>良い所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報公開 ツイッターによりイベントなどの情報が早く提供されるようになったことは良い。 ・ホームページは充実している。素晴らしい。 ・情報公開コーナーがある。 ・職員人材育成方針があり、育成に努力している。 ・西東京市財政白書・市税白書の作成は良い。 <p>改善すべき所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働コミュニティ課の相談できる体勢づくりが欲しい。 ・協働コミュニティ課が忙しすぎる。 ・議会議事録のホームページへのアップデートが遅い。 ・市議会中継がない。リアルタイムでのチェックが難しい。 ・公共施設のホームページの充実して欲しい。(保育園、学童クラブ、児童館、小学校で、各施設がバラバラの状態) ・市のホームページで必要な所に辿り着かない。もう少し探し易くして欲しい。 ・市報や市の広報に市民の意見欄が欲しい。(双方向) ・公共施設でチラシを配れるように。 ・市は子育てに関する国からの補助金をもらい、子どもを育てやすいまちにして欲しい。 	<p>ホームページ・ツイッター等、広報は充実 職員育成に努力 財政白書等の作成、情報公開への取組</p> <p>協働コミュニティ課の体勢づくり 市議会等の情報公開 ホームページの使いやすさの改善 市報等への市民の意見欄の掲載</p>	

視点	課題抽出に向けた個別意見	課題のポイント	取組の方向性に向けた意見
市の行政経営の視点	<p>改善すべき所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投資と効果のアンバランス。(はなバス こもれび ゆめこらぼ 福祉センター) ・ハコモノ行政の見直し。 ・行政経費の削減 ・西東京市社会福祉協議会への事業委託を民間へ変更 ・西東京市後期基本計画など市の資料にはお金に関する具体的な記載が無い。(武蔵野市や三鷹市には具体的な施策が記載されている) ・税金の使い方を市民が分かるよう、予算編成プロセスへの市民参加を促す。(調査事業、予算素案の公開と意見を聞くしくみ) ・西東京市の財政状況:都下の各都市の平均値より上だからマシというのではなく、もっと上をめざすことが必要 ・財政に関する市民へのアピールが少ない。(お金がないことを強調する) ・市民に財政状況が厳しいことを明らかにしていない。(市債残高 700 億円) ・コスト削減の工夫の余地がある。(印刷物を電子化、カラーからモノクロ、外注を内部作成など) ・資料が立派すぎる。(原本以外はモノクロ印刷) ・市の出版物は、コンサル任せにせず、庁内印刷で市民に多く広報する。 ・決算資料、貸借対照表、単独・連結財務諸表がない。(公表されていない。武蔵野市にはある) ・決算報告書(概要) 主要施策についての実施内容、予算・決算の説明が必要 ・滞納税金の回収状況(市税白書)はあるが、滞納債権についての債権償却引当金等の記載が無い。 ・負担金、交付金の効果の正しい評価をする必要がある。 ・第3次行財政改革大綱での第2次行革の活動評価が曖昧である。金額・数値実績を明確化する必要がある。 ・実施計画の進捗状況の具体的な説明や報告が無い。 ・審議会等の報告が遅い。 ・審議会・検討委員会への傍聴者への関係資料の配布を定める。 ・成長管理を行う。 ・電子化についての的確な評価が十分でない。何でもかんでも電子化することが良いのか疑問がある。 ・特別職(市議)の期末手当2割加算は不要。90年代から加算されている。条例の中に記載されているが市民は知らない。 ・昭和病院、柳泉園他への視察について、市議は交通費程度で良い。報酬は不要である。 ・各審議会、委員会に市民参加を進めて報酬を見直す。特に市議は二重報酬になっていると思う。 ・市議会の改革が必要。議会基本条例を市民が参加して作る。 ・減税を検討する。(国民負担率は上がるばかり) 	<p>税金に応じた行政経費削減、事業の見直し コスト削減の工夫 行政のプロセスや結果についての説明</p> <p>税金・予算編成等を市民にも分かるようにする 市議会の改革 審議会、委員会への市民参加の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・納税者意識を高める取組。 ・税金、財政が厳しい中なので、市民も税金の使い方に関心を持つようにする。 ・予算編成プロセスへの市民参加、予算方針等のホームページ等による公開、更なる関心度の向上を図る。 ・各部局からの要求事業内容、市長査定などを公開して透明性を高める。 ・市民に市の財政が厳しいことをアピールする。 ・市で作成している各種資料は、具体的な数値や金額の記載が少なく、現在の問題点や課題の把握、実施計画に対する目標値の設定が曖昧となっているので改善する必要がある。

視点	課題抽出に向けた個別意見	課題のポイント	取組の方向性に向けた意見
市の行政経営の視点	<p>改善すべき所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の研修を徹底する。 ・職員参加で横のつながりを図る。 ・職員数は減少しているが外部委託費・嘱託職員費等が合併計画に対して増えている。 ・上ばかり向いている部課係長が多い。若い職員の意欲を伸ばすことや自主性の尊重が必要 ・職員採用は、できる限り市民を採用する。 ・行政を進めるにはコンサルに任せず、市在住の市民を活用する。市の特色を出すこととなる。 ・第2次基本計画づくりは、多数の市民が時間をかけて学び、議論できるようにして欲しい。コンサル任せにしない。 ・自治基本条例(自治体の憲法)を市民参加で制定する。 	<p>職員の育成・専門性の向上(市内職員の採用) 基本計画に市民の意見を活かす</p>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・西東京3・4・9号線は、オオタカ等生物多様性を保つために「種の保存法」を守り、都に中止させるべき。 ・市民の命と健康を守るために、「廃原発」にするため、原発を取り上げて欲しい。 ・防災対策として東大農場、演習林 10 万坪を避難場所として整備し、水、食料等を備蓄する。(東大と協議を) ・都市計画道路でも、「法」を犯かしているときは、都に中止を求める。「種の保存法」を実現し、生物多様性を保全する。 ・都市計画道路は、40 数年前に線引きされたもの。3・11 以降、新たな道路にはお金を使わずに既存の道を 50 年 100 年かけて拡幅して安全な道とする。 ・行政として市民の健康と命を守ることは最大の使命。いろいろな意見があるのは当たり前。原発問題も考えて欲しい。 ・市民の健康・命を守るためには廃原発すべきと思うが、原発を取上げて欲しい。 		

2. 発表時の質疑

グループ	質問・意見	回答
1グループ	<p>極端な個人的意見が見受けられる。グループとしての総意となっていないのではないか。</p>	<p>会議時間の関係もあり、グループ意見としてまとめる形までは至っていない部分もある。まとめの公表に当たっては、その旨を配慮する形での対応とさせていただきたい。(市より回答)</p>
	<p>中学校などでの防災教育を充実して欲しい。</p>	<p>防災は大きな柱になると考えられる。総合計画においても東日本大震災震災を踏まえ、具体的な内容はまだ分かりませんが、何らかの教訓を盛り込んでいくような対応は必要だと思われまます。(市より回答)</p>
3グループ	<p>市民参加条例についての意見の中で、委員の人数云々との発表があったが、どういうことなのか説明して欲しい。</p>	<p>審議会委員等における一般公募の市民委員の数が2名以上となっているが、その規定について見直しをして欲しいということです。(3グループより回答)</p>
	<p>市の財政状況が厳しい状況を踏まえ、財務諸表(バランスシート)のような形式で公開したほうが良い。(意見)</p>	
	<p>地域経済と産業の空洞化対策として地産地消の観点から、地元産品(農業・工業製品も含め)を買うような働きかけをしていったら良いのでは。(意見)</p>	